

## 北米視察報告＜2＞

視 察 項 目	少子化対策（次世代育成の支援）
視 察 日 時	2009年3月25日（水） 午後1時30分～午後3時30分
視 察 先 名	Burnaby Family Life Institute
説 明 者	バリー・ジョーンズ理事長
担 当	廣田 健一

### 【はじめに】

カナダバーナビー市の少子化対策（次世代育成の支援）の視察は、当初、24日に予定されていたが、出国当日の成田空港における貨物機墜落事故により、日程の変更を余儀なくされた。このような状況にもかかわらず、旅行代理店の尽力を頂き、25日に快く視察の受け入れをしてくださいました“Burnaby Family Life Institute（バーナビー家庭生活協会。以下「BFL」）”方には、お礼申し上げます。当日は、バーナビー市商工会議所の最高責任者が同席することで大変驚いた。また、バーナビー市長も最初の日程では同席する予定であったが“同席できず残念である”とのメッセージをいただきました。

はじめに、私、廣田から視察を受け入れて頂いたお礼のあいさつをし、川崎市の市勢や少子化対策の取り組み、今回の視察目的をお伝えした。我々、視察団の応対をしてくださった BFL のバリー・ジョーンズ理事長からは、BFL の活動について次のような説明を頂いた。

理事会は広範囲の要請に応じている模範的な組織に貢献し、2008年に BFL は著しい発展を遂げた。この2年間に財源は35%増加し、支援した方々も58%増加した。そして、現在、BFL が取り組んでいる課題は次のとおり。

- ① カウンセリング・サービス用に適した手頃な価格の場所を見つける。
- ② 職員のための切磋琢磨する環境を発展させる。
- ③ 要支援者の複合的な問題を助ける。

- ア 貧困
- イ 廉価な住居の欠乏
- ウ ホームレス
- エ 廉価な料金のチャイルドケア
- オ 英語力の欠乏
- カ 文盲
- キ 西洋文化への適合

BFL は政府の 3 レベルからの支援に加えて、現在も続いている 8 機関からの惜しみないサポートを受けている。

私達は理事会の仕事をするための、強力で有能な人々を惹きつける幸運にも恵まれました。これらの人々は様々な観点を会議に提起し、大変密接に連携して働いている。

最後に、遠い国である日本国川崎市の市議会議員の視察を大変嬉しく歓迎するとのあいさつがあり、バーナビー市商工会議所最高責任者のダーリン・ギオン氏にも同席いただき歓迎のごあいさつを頂いた。



理事長から説明を受ける視察団

## 【Burnaby Family Life Institute の概要】

使命は配慮あるケアと信用ある専門家によってもたらされる支援活動や機会を、育むべき人々・家庭・地域に提供してそれらの持つ多様な潜在力をフルに生かすこと。そして信任、清廉、尊敬、学習の4本柱を行動規範とし、BFL はより良いものに発展して行くために人々が明確な目標を掲げ、体系的計画に基づいてプログラムを遂行することを理念とする。

支援活動の概要として、

### ① 産前・産後の支援

ア 3ヶ所での妊婦への出張支援

イ ベイビー&ミー

### ② 家庭生活教育

ア ノーボディイズパーフェクト1 (英語、北京語、ペルシャ語)

イ 効果的子育てのための系統的訓練

ウ 父親のためのプログラム

エ 両親・男性の為の「腹立ち」のマネージメント

オ 一緒に子育て

カ 躰と罰

キ 10代の子供と私

ク シングルマザーの支援

ケ 青年の育成

### ③ 家庭リソース・プログラム

ア 家庭への立ち寄り

イ 親と子のマザーグース

ウ エドモンド幼稚園

### ④ 異文化交流支援

ア 移民女性のための支援、ESL プログラム

イ 移民のための子育て

ウ アフリカ児童のためのホームワーク・クラブ

エ アフガニスタン ESL

- ⑤ バーナビー南チャイルド・ケアセンター
  - ・ 若い親のためのプログラム
- ⑥ 児童のためのプログラム
  - ・ ELSA 英語クラス、BFL プログラムのためのチャイルドケア
- ⑦ 生活能力支援
  - ア 将来計画と目標設定
  - イ 生活費管理
- ⑧ 性的虐待から立ち直ろうとしている女性のためのプログラム
  - ア 回復への導入
  - イ 不安の破壊
  - ウ ヒーリングのためのイメージ作り
  - エ 真の自分の発見
  - オ 親族虐待や子供の時に性的虐待を受けた女性の為の個別カウンセリング
- ⑨ 虐待を目撃した児童のためのプログラム
  - ・ 3歳から18歳までの児童のための個別カウンセリング
- ⑩ 地域の組織
  - ・ 25のパートナー機関と地元の組織に広範囲な継続的支援活動



児童のためのプログラムについて説明を受ける視察団

## 【質疑応答】

Q1 : この施設の利用状況は

A1 : バーナビー市に13ヶ所あり、学校内に10ヶ所、市の施設として3ヶ所。経費は、賃借料が年間1ドルで、昼夜関係なく利用されている。

Q2 : 利用者の割合はどのくらいか。

A2 : 国籍の区別なく移民の利用者もいる。また、15年前はゼロだった父親の参加が、最近は徐々に多くなっている。

Q3 : スタッフはどのくらいか。

A3 : 100人くらい登録している。37カ国語に対応でき、1人で6カ国語を話すことができる人もいる。

Q4 : 年間経費が1ドルとのことだが、人件費は含まれるのか。

A4 : 施設等は国及び市の公共物で、スタッフはボランティアである。

## 【統括】

少子化対策(次世代育成の支援)として、バーナビー・ファミリーライフ・インスティテュート(バーナビー家庭生活協会)を視察した。この協会は、バーナビー市や商工会議所などからの協力や支援を頂き、施設の賃借料は割安で借りることができる。

この協会に登録されているボランティアは、語学堪能なスタッフが多く、その数は100人近くにも及び、日本語を含め37カ国の言語に対応することができる。また、プログラムの数も100以上と豊富で、どのプログラムをとっても理念・目標がしっかりと表現され、活動内容も充実していた。

今回の視察を通じて、川崎市においてもNPO法人や国際団体等から

も認められるような組織を設立し、育成可能な活動ができるように、  
今後、商工会議所の一員として活動する団体の育成を図りたい。



施設スタッフと視察団